

第2回 田名部まちなか再生検討委員会 議事要旨

■議事

1. 駐車場に関する位置づけの必要性について

- ① 人が集まらなると再生にならない。ワークショップの結果を見ても、この資料の中には駐車場等について触れられていない。そういうものについては、この委員会で検討するのか。（中村満雄委員）
- 地区まで車で来るかは別にして、ワークショップでは、街歩きからスタートしたこともあり、まちなかを歩いて楽しむという視点で議論されていた。駐車場よりも歩ける環境の安全性について意見が出されていた。
- エリアマネジメントとなると、外から来た車の駐車場を、歩行者環境をどう住み分けして確保するか、ある程度提示する必要がある気がする。（北原委員長）
- 委員長の話の通り、ワークショップの段階では、観光客も含め、まちなかを歩く事を想定して検討が進められた。今後、エリアマネジメントを進める中で、協議会等を設立することを想定しているが、駐車場についてはその中で検討したいと考えている。（事務局）
- 考え方を提示する意味で、歩行者ネットワークと合わせて、駐車場をどう考えるかを書いておくべきかも知れない。検討してほしい。（北原委員長）

2. 郊外大型店の進出と本計画の関係性について

- ① 店舗が並んでいるところに人が集まるように思う。市内のあちこちに市外からの大型店舗が分散している事との兼ね合いを強く考えていかないと、人を集めるのは難しいのではないかと。その事を踏まえて、これから先の見通しと、この計画との兼ね合いを聞きたい。（今村委員）
- 今までの中心市街地の活性化は商業の活性化がメインだった。それも一方の柱ではあるが、今回のワークショップでは、人が住まなくなったことについて、歩いて回れる良い環境をつくる事と、そういう魅力づくりをする事で、子育て世帯や高齢者に住んでもらえるような環境をつくるという事が提案されていた。（事務局）
- 今村委員の意見を自分なりに解釈すると、他地域からの資本が入って来て、そこに人が集まっても、本当に地域の活性化に繋がるかという点と違うという事だと思う。
- 空き店舗などがある場合に、地域で自分たちの力で空間を用意するマネジメントをしていかないといけない。今までは、どこかに来てもらって助かっていた。
- 店舗じゃなくても、例えばNPOの活動の場にするとか、地元の空間を用意するという事を、もう少し鮮明に書いた方が良いように思う。
- そうは言っても、現実的には、空いているところには居酒屋や家電量販店などが進出してくる。
- 自分たちで地域の空間をマネジメントしていきたいという事を目標像の中に入れておくべきではないかと思う。（北原委員長）

3. 環境美化活動の必要性について

- ① 私が「良いな」と感じる街は、綺麗な街である。建物ではなく、ゴミがない、川が綺麗というような清楚な感じのする街は魅力的である。地域の人たちが街に新しい建物を建てるのではなく、自分の周りを綺麗にしようという気持ちが芽生えないと、活性化するのは難しいと思っている。それも強く

盛り込んでほしい。(今村委員)

→ 意向調査の参加できそうな事業でも、必ず出てくるのが、河川の整備や保全、道路の植栽の整備など、今村委員の意見が基本的な事として結果に出てきている。

自分たちがマネジメントするということは、先ずはそういう部分からだという事を、メリハリをつけて書いておくことも大事である。商業機能の充実や歴史の保全とあり、身の回りの空間の保全としては、「水辺空間の」としか書いていない。植栽、花植え、清掃など色々と提案されている。「先ずはそこから取り組む」というような表現の仕方を変えると良いかも知れない。次回までに検討してほしい。(北原委員長)

4. 地区住民への広報、説明会の必要性について

① 住んでいる人たちの「何とかしよう」という意欲が大事。資料の中にエリアマネジメントの広報が必要と書かれているが、住んでいる人たちに意欲を喚起する、主体的に関わるのを後押しするような事はしているのか。(小川委員)

→ ワークショップについては、開催案内などをかわら版という形で、地区を限定して約4,000戸に配布している。今後も、この検討結果など地区に対して情報提供していく。

ホームページにもアップして、色々な意見をもらえるようにしたいと考えている。(事務局)

② 私は本町に住んでいるが、63頁の課題をみると、基本的な問題は提示されていると思う。65頁の2. 事業・活動に取り組む基本姿勢も、これで良いと思う。基本的な部分が示されていれば、それに沿って進んでいくことができる。

本来は、地区に住んでいる我々が、こういった内容を感じなければいけない。本町町内会は、総会でも収支報告だけで終わってしまう状況にある。経済でも、商業でも、本町に住んでいる人たちは、より一層に危機感を感じているはずであるが、町内会ではそういう話が出てこない。

この機会に、私の方から町内会に問題提起したいと考えている。本町以外の柳町や田名部町もそうならなければならないと思う。皆さんが応援してくれているのに計画倒れにはできない。

小川委員の言うように、住んでいる人がどう考えているのか、総会で議論したい。(中島常博委員)

→ ホームページへの掲載や広報への折込では、見てもらえるか分からない。今回のパブリックコメント中に、各町内会に説明する機会がもてれば、踏み込んだ議論ができるし、気持ちを喚起することにも繋がる。パブリックコメントとは別に検討してほしい。(北原委員長)

5. 河川の親水空間整備、水質改善について

① 水辺空間の保全に関連して意見がある。田名部川に小川が流れ込んでいるが、この川の上流はかなり水が綺麗で、イワナやヤマメを釣れる環境になっている。子ども達がアユを釣っているのを見たこともある。この川を何とか浄化して、下流にまでイワナやヤマメが棲める環境にしてほしい。親子連れやお爺さん、お婆さんが、釣りを楽しめる環境になれば、人も集まってくると思う。レクリエーション施設の整備も含めて、検討課題にしてほしい。(渡邊委員)

→ 具体的な内容については、来年度協議会等で検討していくことになると思う。小川は2級河川なので県管理だが、県とも協力しながら、ボランティアによる清掃や水に触れる施設整備など、検討していきたい。(事務局)

→ エリアマネジメントの計画、中心市街地の活性化の計画に、川を綺麗にしていこうと書かれているのは、地域の特徴だと思う。今回の課題にも水辺空間の保全とあるが、保全だけではなく、

親しめるようにということなので、少し目標を高く設定して、水質をマネジメントしていく事が、この地域の大事な目標の一つだという事だと思う。事務局が言ったように、これからの進め方ではあるが、重要課題として考えてもらいたい。（北原委員長）

- ② 小川は、小さい頃に泳いだ川である。今でもチカやアユが遡上している。上流の方では生活排水が垂れ流され、水は汚れている。生活排水を止めて、ボランティアで清掃すれば、かなり改善されると思う。

明神川も、昔はフナやドジョウが捕れた。小川の上流で取水した灌漑用水が、第一田名部小の下から旧田名部駅の下側の田を潤して、明神川に流れ込んでいた。また、早掛沼の灌漑用水、或いは女館川の灌漑用水が、旧大畑線の両側の田を潤して、明神川に流れ込んでいて、明神川は綺麗な川だった。この計画では清掃を謳っているが、それだけでは無理だと思う。抜本的に、綺麗な水を引き込むという方法も必要ではないか。（二本柳委員）

→ 河川については、ここで綺麗にすれば良いという問題ではない。上流のことや、生活排水のことなど、地区外のことも含めて総合的に取り組まないと綺麗にならないという指摘だと思う。表現の仕方を検討してほしい。

6. 本計画と市他部局の事業との整合性について

- ① 今回の資料でとりわけ興味をもったのは、第一田名部小学校からの眺望と小川、明神川の保全だった。柳町に住んで70数年になるが、第一田名部小学校も小川、明神川も、遊び場だった。

柳町町内会では、第一田名部小学校の登校路のコンクリートが劣化して危ないので、一昨年から改修要望を出している。昨年、改修方法として、登校路はアスファルトの簡易舗装、階段は補修と手摺りの設置を検討していると回答があった。

丁度、第一田名部小学校からの眺望の話と重なる。あの階段は小学校ができる前の公園の階段であり、大通りから真っ直ぐ階段が見えるようにできている。歴史的なものなので、しっかり補修して、上の方も整備してほしい。工事をする場合、この計画と整合性をとってほしい。（二本柳委員）

→ 学校用地になっているので、回答をしたのは教育委員会だと思われる。恐らく当面の補修として考えていると思う。将来的には、この計画を検討していくなかで、きちんとした整備の方針を出す必要があると考えている。

→ この計画は、ある意味で地区の総合計画のような性格をもっている。整合性をとっていかねばならない。他の部局でやっている事も繋がるようにしてほしい。（北原委員長）

7. 協議会等、次年度以降の推進体制について

- ① まちなか再生協議会には、事業や活動が始まって、お金が動いていくことになると、地元の企業や銀行にも手伝ってもらわないと難しい。その辺りも書き込んでほしい。（北原委員長）

- ② この委員会はいつまで開催して、いつから協議会に移行するのか。（其田委員）

→ 協議会は年度明け直ぐに立ち上げたいと考えている。メンバーの選考も必要なので、4～5月には難しいかも知れないが、協議会が立ち上がらないとエリアマネジメントを進めることができない。速やかに設立できるようにしたい。（事務局）

→ 委員会がなくなって、その後は協議会で進めていくという解釈でよいか。（其田委員）

→ 協議会が事業展開していくことになる。（事務局）

→ 平成24年度から事業・活動に取り組むということなので、早急に設立してほしい。たなぶ七

福通りの活性化事業も、事業期間が5年なので、リンクできるようにしてほしい。（其田委員）

- ③ まちなか再生協議会とエリアマネジメント支援会議の関係がよく分からない。支援会議が協議会に含まれても良いように思う。（小川委員）

→ 例えば、まちなか居住を検討していくなかで、事業計画を作成して地権者に提示する等、専門的な知識、技術が必要になる場面が出てくると思われる。協議会は、地区住民を中心に物事を決めて動いていく会議なので、そこまで専門的な検討は難しいと思われる。専門家による支援は常に必要ではなく、分科会の活動や検討内容に合わせて、事務局が専門家を派遣することになるので、協議会とは分けている。（事務局）

→ あくまでサポーターのような位置づけということで理解したいと思う。（北原委員長）

8. 計画案の修正について

- ① 表現の修正など意見があれば、後日でも事務局に伝えてほしい。（北原委員長）

9. 次回委員会について

- ① 第3回委員会は3月19日の16時開始となっているが、開始時間を早めることはできないか。（其田委員）

→ 次回は14時開始に変更する。（事務局）